

<学校教育目標> 自ら考え、主体的に判断し、行動する、心豊かで心身ともにたくましい子どもの育成

め の と



5月 皐月
長崎市立女の都小学校 学校だより 運動会直前号
令和4年5月18日 文責 校長：松田伊知郎

<めざす児童像>

- ① あてを立ててすすんで学ぶ子
- ② そみをもってたくましく生きる子
- ③ もだちとみがきあう思いやりのある子

5月10日全校集会で、2つの話をしました。それぞれが本年度の重点努力目標の中の「みんなでもっとにこにこ」のための話です。笑顔で生活すると幸せになり、幸せになるとまた笑顔も増えます。みんなでもっともっと「にこわく女の都小」を作り上げていきたいものです。

～みんなでもっとにこにこ その1～

1つ目の話です。弟や妹だけでなく、近所の下級生のお世話をしながら登校する子がほかにいます。

4月に、1年生のお母さんが私にこんな話をしてくれました。「先日、我が子の登校を学校裏門先の階段下まで一緒に来て、そこから先は1人で登校させて見送りをしました。そのとき、階段上の方にいた2人の上級生が、1年生が1人で階段を上ってくることに気付き、「一緒に行こう」と声をかけて学校まで一緒に歩いてくれました。学年も名前もわからない上級生だったのですが、子どもがとても喜んでいました。」というお話で、この話をしているお母さんの顔も笑顔で、本当に嬉しそうでした。

私は、始業式の中で「他の人や物への思いやりなどにより、他とともに幸せになる気持ちを大事にしたい。そのためにも、ほかの人のために「自分に何ができるか」を考え、それを実践してほしい。」と話をしました。「みんなでもっとにこにこ」の行動はいろいろありますが、逆に「自分には何がやれるかなあ」と思うかもしれません。まさにこのような行動が「みんなでもっとにこにこ」の活動だと思いました。少し勇気がいりますが、この2人の勇気のおかげでその1年生も保護者もにこにこです。既に今年度の目標を達成している人がいることはとても素敵なことですし、見習いたいものです。



～みんなでもっとにこにこ その2～

2つ目の話です。会の参観の折に、頑張っている姿や成長した姿をたくさん見付けて、たくさんほめてあげてください。

運動会では、テーマにもあるように、運動することやそれを見てもらうことを、是非とも楽しんでほしいと思っています。ただ、その「楽しい」は「ふざけて面白い」こととは違います。自分の最高の力で走ったり跳ったりすること、頑張っている人を応援すること、または動きたいけれどじっと動かずにいることなど、これまでよりもきついことや難しいことに挑戦して、それができるようになっていく喜びで楽しくなってほしいと思います。そして、そんな「一生懸命頑張る姿」や「成長した姿」を見てもらうことで、見ている人にもにこにこを分けてほしいと思っています。

ここまでの練習では、それぞれが「一生懸命」に頑張る、練習によって成長の跡がしっかりと見られます。会の参観の折にその姿をたくさん見付けて、たくさんほめてあげてください。

お知所

～ 「民生委員・児童委員」「主任児童委員」、ご存知ですか？ ～

長崎市においては「長崎市民生委員児童委員協議会」という組織に属し、厚生労働大臣に委嘱されて、皆さんからの相談事や悩み事を内容に応じて関係機関による支援へつなぐ役をしてくださる方々です。先日、その啓発活動としてポケットティッシュを一人1個ずつ持ち帰ったと思います。その中に入っていたカード大のリーフレットにあったように「妊娠」「介護」など、生活全般で大人に関わる人が多いのですが、学校でも下校の見守りではお世話になり、子どもが安心して生活することができない場合は相談に乗っていただく場合もあります。地域のいろいろな方々にお世話になりながら、安心・安全は守られています。



～ 安心安全な生活を!! ～



「ハインリッヒの法則」をご存じでしょうか。それは「1件の重大事故の裏には29件の軽微な事故と300件の怪我に至らない事故がある」というものです。「1：29：300の法則」ともいわれるもので、「ヒヤリ・ハット」があったときはもちろん、何事もないときでも危険は潜んでいるという警鐘を鳴らし、重大事故を引き起こさないようにしているものです。

学校は、子供たちが安心して生活することができる空間でなければなりません。子どもたちが笑顔で登校し、笑顔で下校していくことを旨としている本校においては、特にこのことを強調し続けます。しかし、このことは当たり前のことではありますが、実は簡単なことではありません。生活している子供自身や教職員、家庭、地域や学校に関わる様々な方々の不斷の努力によって保たれているものであり、その努力を怠ったり緩めたりしたとき、また活動の狭間などでタイミングや感覚のずれが生じたときなどに、事故や事件が発生することがあります。もちろん、校内では幾重ものチェックや連絡・連携を旨としていますし、学校から子供の様子をお伝えしたり家庭での様子をお尋ねしたりすることも、そういう事態を招かずによりよい教育を行うためです。保護者の皆様が子供の様子に変化を感じた場合は、学校へ御連絡ください。

今後、雨が多くなる時期を迎えると、特に危険度が増すこともあります。それは登下校時の大雨や強風などによるものです。これらは、土砂災害等だけでなく、水流が速くなった側溝に落ちたり悪い視界の中で交通事故にあたりすることにもつながります。また天候に関わらず、登下校中に追いかけて競走をすることで左右の安全確認等が不十分のまま車道に走り出す子を時折目にし、私も声をかけることがあります。幸い、今は事故にはつながっていませんが、これからもそうであるとは限りません。より一層、子供自身の安全への意識を高めるためにも、家庭での子供の健康状態の把握や安全な生活のための声掛けをお願いいたします。



～ まず『自主性』，そして『主体的』へ… ～

『自主性』とは「自分の判断で行動すること」で、『自主性のある人』は過程が違ういくつかの選択肢の中から自分でどれが最適なのかを考えて選ぶことができます。経験をもとに同様の問題を解決することができるのも『自主性のある人』です。また、『主体性』とは「自分の意志や判断に基づき、責任をもって行動すること」と言われ、『自主性』に「意志」や「責任」が加わることになります。つまり、『主体性のある人』は、誰から言われなくても自分の課題解決のための方法を考え、それを実行に移すことができる人で、自分が判断したのだからその責任は自分が負うという姿勢も持ち合わせた人のことです。そう考えると、学校教育目標にもある『主体性』は一朝一夕では身に付かない難しいことになります。どうすれば身に付くのでしょうか。

先月末から希望面談日が続き、掃除をカットしての早めの下校が続きました。早く下校できることを喜んでいた子どもたちの中で、6年生は給食から下校までの短い時間の中で、手分けをして校内の要所を掃除してくれました。6年生の皆さん、ありがとうございました。6年生だけで行った活動ですが、見ていても気持ちのよい活動をしていました。また、特に高学年は運動会の練習や準備等でこれまで以上の活躍をしています。教師からの提案や指示を受けて行っている活動は、この時点では主体的でも自主的でもないのかもしれませんが、しかし、「やった方がいいこと」の中にやる価値を見出し、気持ちを込めて活動している姿は、やがて自主性や主体性につながるものです。ポイントは、日頃の関係性と、どんな声をどのタイミングで掛けるか、です。

「自主性」「主体性」は、自然に身に付くものではなく『育てるもの』です。学校では育てる仕掛けをどんどん取り入れたいと思います。御家庭でもやってみてください。